

目次	1	人材政策研究ユニット：「OECD日本イノベーション教育ネットワーク」発足 [殿木久美子]
	2	研究室の窓から [久保麻紀子] / 大学院講義レポート [飯田麻衣]
	3	学生インタビュー [福山亜希子さん]
	4	ただいま、GraSPP! [華井和代] / トピックス

人材政策研究ユニット： 「OECD日本イノベーション教育ネットワーク」発足

殿木久美子 学術支援専門職員

●「OECD東北スクール」をご存知ですか？

東日本大震災で被災した福島、宮城、岩手の中高生たちが、OECDや地域の皆さんのサポートの下、自ら解決する能力を涵養するという「創造的復興教育」を行うため、「OECD東北スクール」が生まれました。

このスクールは、被災地の84名の高校生が2012年から約3年かけて考え抜いた東北復興への方策を、OECD（経済協力開発機構）本部があるパリでの東北の魅力と復興を発信するイベントで発表して一区切りを迎えました。このスクールの成功を受け、OECD事務局を含めた関係者から、この動きを深化させ、全国的に広げるべきとの声が高まりました。

そこで、文部科学副大臣や同省大臣補佐官として教育問題に一貫して取り組んできた鈴木 寛公共政策大学院教授が中心となり、「人材政策研究ユニット」が公共政策大学院（GraSPP）に設けられました。当ユニットの下、21世紀の教育を考え、つくることを目的とした「OECD日本イノベーション教育ネットワーク」を発足させ、その中に東北スクールを受け継ぐ「地方創生イノベーションスクール2030」を立ち上げ、4月14日に発足記念シンポジウムを東京大学で開催しました。

●シンポジウムには国際機関・政府関係者から高校生まで参加！

教育機関、企業、NPO、国際機関、政府等から約400名が、シンポジウムに参加しました。冒頭、鈴木教授による趣旨説明の後、アンヘル・グリアOECD事務総長、根本匠前復興大臣、山中伸一文部科学事務次官及び児玉和夫OECD代表部大使による来賓挨拶及び五神真総長及び大桃敏行教育学研究科長による挨拶、同ネットワークボードメンバーの秋田喜代美教育学研究科教授による基調報告が行われました。

その後、「地方創生イノベーションスクール2030」に参加する東北、広島、和歌山、高専の各クラスターの代表者及び生徒から、東北スクールでの経験、被災からの復興の歴史、アジア高校生フォーラムの取り組みなどに関する報告、今後の方針の説明及び決意表明がありました。高



鈴木寛教授と
クラスターの高校生たち

校生が緊張の中、熱い想いを懸命に語っていたのが特に印象的でした。

最後に、城山英明GraSPP院長から、現代社会に山積する課題の解決策を主体的に提示する人材の育成モデルを発信していくフロントランナーとして責務を果たす、と力強く表明いただき、成功裡のうちに閉幕しました。

●「海外と国内」、「政策研究と実践」の協働

本ネットワークでは、GraSPPがOECDや全国の教育関係者と連携して、新たな教育手法を研究し、開発することとしています。基本コンセプトは、「国際協働による教育研究を推進するThink-tank活動」、「教育研究と実践を連携するDo-tank活動」を通じた、次世代の学びの開発・普及であり、現在の主要テーマは以下の3つです。

- ・21世紀の世界に求められるコンピテンシー（問題を自ら解決する能力）は何か？
- ・コンピテンシーを育むために効果的な学習モデル（教授法）は何か？
- ・コンピテンシーをいかに評価するのか（評価法）？

具体的には、OECD内のワーキンググループである"Education2030"と連携して運営することにより、国際的な枠組みの下で教育における研究と政策の融合に取り組んでいます。国内では、上記クラスターに加え、全国規模で参加校を募り、成果のフィードバックを得る予定であり、地にしっかりと足を付けて進めていくことを重視しています。

●ウェブサイトからも発信します！

本ネットワークの今後の活動については、ウェブサイトからも発信します（<http://innovativeschools.jp/>）。このウェブサイトをご覧ください、様々な形で参加・サポートいただければ幸いです。皆で日本の教育の将来について考えていきましょう。



アンヘル・グリアOECD事務総長の挨拶

研

研究室の窓から

第12回

実務家教員の醍醐味



特任准教授

久保麻紀子

国土交通省という官庁の実務の世界から教育・研究の世界に飛び込み、早いもので1年3ヶ月が過ぎようとしています。GrasPPでは実務家教員として、海事政策に関する講義を担当すると同時に、稀少な現代のフロンティアである「海洋」をテーマに研究を行っています。実務家としての経験を生かしつつ、大学の多様な部局の海洋の研究者と日々交流できる恵まれた環境は東京大学ならではの。実務家として、社会のニーズと大学の最先端の研究の接点となり、新しい知を生み出せるよう、研鑽を続けていきたいと思っています。

実務家教員としてGrasPPで講義や研究活動に携わるにつれ、官庁の組織や政策を研究素材として客観的に眺める機会が増えました。これまで関わってきた仕事について、一步引いて見えてくる発見も醍醐味の一つだと感じています。入省した国土交通省の政策の流れをあらためて俯瞰すると、この20年ほどで政策の方向性は大きく変化したように感じます。政府規制の緩和の流れの中で、政策は様々な事業主体の活動により公共サービスの多様化・高品質化を目指す方向へと進化をとげ、社会の多様性や持続可能性が重視される利用者視点の政策へシフトしています。例えば高齢者や障害者の移動円滑化を目的として始まった交通機関等のバリアフリー化は、設備投資を伴い、当初はかなりチャレンジングな課題と捉えられていましたが、今では、課題は依然として残るものの、駅舎でのエレベーターや低床車両など、普通に見られるようになってきました。また、子育て世代や訪日外国人等に対するバリアフリーにも検討が及びつつあります。課題は多く、解決しても次から次へと生まれてきますが、中長期的な時間軸で見れば、地道な政策の積み重ねが社会を着実に、また大きく変えていると感じられるのです。

大学院 講義 レポート

第13回

飯田麻衣

MPP/IP 2年

【講義科目】 International Field Workshop

【担当教員】 西沢利郎 教授



3月上旬、周りの友人が春休みを楽しんでいる中、私は未だに授業を受けていました。しかし、その場所は本郷キャンパスではなく、ワシントンD.C.とニューヨークの国際機関の会議室でした。

GraSPPの大きな強みは、実務家から直接学べることです。大学の教室だけでなく、時にはキャンパスの外に出て海外まで行くことも。今回ご紹介する "International Field Workshop" は、海外の実務家と直接議論できる貴重な科目です。

様々な分野に触れる機会

履修生は10名程度で、他研究科の学生と一緒にになります。まずGraSPP内で選考がありますが、選考に通れば他研究科の学生から、普段は触れることのない学問の話が聞けます。私自身、初めて医学の専門用語や実験の様子について知ることができました。訪問する国際機関も金融、開発、医療など多岐の分野にわたるので、視野が格段に広がります。

自らワークショップを企画

3月の訪問に向けて、12月頃から準備を進めていました。各自、機関を割り当てられ、割り当てられた機関とやり取りし、当日の議論のテーマ等を提案します。私はほか2名の履修生と共に、国連開発計画(UNDP)を担当しました。何回かミーティングを行い、プレゼンテーション資料を作成し、西沢先生との打ち合わせを経てUNDPと調整しました。自分の専門分野について発表し、その分野に精通する実務家から直接フィードバックを得られて、大変有意義でした。

日本国内だけでなく、海外ともつながりを持っているのはGraSPPならではのと思います。これほど多くの国際機関に赴き、海外で活躍する実務家と意見交換する機会は滅多にありません。毎年人気の授業なので、狭き門かもしれませんが、是非ともチャレンジしてはいかがでしょうか。

Student Interview

学生



インタビュー

福山亜希子さん
法政策コース1年

▶ 第20回

— 大学卒業後10年以上経ってから大学院入学とは日本ではかなり珍しいと思いますが、きっかけは何だったのでしょうか？

職場（衆議院事務局）で「大学院で学んでみないか」と声をかけてもらったおかげです。実はチャンスがあれば大学院で勉強したくて、意向調査で希望を出していたので、GraSPPで学べるようになったときは嬉しかったです。選択肢である首都圏の国公立の大学院のうち、学びたいことに一番近い内容を提供しているGraSPPを選びました。GraSPPを修了した男性の先輩がいます。先輩が在籍していたのは7、8年前で、話を聞きに行ったところ「だいぶ経ってGraSPPもずいぶん変わっているだろうが、自分は行って非常によかった」とのことでした。

もともと公務員志望で、一般職（Ⅱ種）で今の職場に入ったのですが、入ったら総合職（Ⅰ種）との仕事の違いはなく、男女の区別なく働け、すごく公平で女性が働きやすい職場です。ここで働けて幸せだと思っています。省庁等に出向の機会もあり、限られた範囲とはいえ、違う世界に触れられるチャンスが比較的多いのもこの職場の魅力です。国土交通省に出向したことがありますが、行政と立法の違いに直接触れられた良い機会でした。

法律案に関する論点やデータなどをまとめた参考資料集を作成し議員に提供する仕事をしているうちに、もうちょっと勉強して自分のベースアップを図りたいと思ったのがGraSPPを目指した動機でした。視野を広げたいという気持ちもありました。

— 授業はいかがですか？

現実の政策とリンクしている授業が多く、GraSPPに入学して良かったと思っています。

今学期（S1）の八田達夫先生の「ミクロ経済学基礎」は、実際の政策に直結した話が多いだけでなく、先生の忌憚ない意見もちょうちよく伺うことができ、有意義でした。凝縮されていて濃密な時間でした。ただ、他の授業との兼ね合いもあり、経済科目で必須の4単位のうち残り2単位は来年に持ち越すことになったのが気がかりで、気がかりで。おまけに、来年取る予定の授業が苦手な英語の授業になりそうなんです。どうして!？と、どんよりとした気分です(苦笑)。

— 久しぶりの学生生活で苦労話があれば聞かせてください。

たまに若者言葉がわからないことがありますが、その場でなかなか聞けなくて。気後れしていないで聞かないとダメですね。

LINEデビューも果たしました。これまでは仕事で必要なかったので、SNSは一切やっておらず、ガラケーで間に合っていました。とはいえ、学生になるとSNSとスマホは必須だろうな、とうっすら覚悟はしていたところ、案の定、入学直後にみんなとLINEのアカウントの交換が始まり、慌ててスマホを買って走り出しました。

事例研究用のFacebookグループを辻田先生が作成してくださり、そこに授業の資料がアップされたりするので、Facebookも始めました。LINEもFacebookもおっかなびっくり始動というところです。ITツールやSNSを自在に使いこなす今の学生のスキルに、感嘆しています。

(インタビュー・文責 編集担当)



ただいま、GraSPP!

華井和代 特任助教

GraSPP 5期生の華井です。2011年3月に国際公共政策コースを修了した後、新領域創成科学研究科の国際協力学専攻(DOIS)で博士号を取得し、今春にGraSPPに戻ってきました。コンゴの紛争資源問題と日本の消費者市民社会のつながりを研究しています。

もとは歴史教育学を学んでいたため、GraSPPに入学した頃は授業についていくのに苦労しました。友人が勉強会をしてくれたり、英語の授業では発言をフォローしてくれたり、周りの人にずいぶん支えられました。「国際紛争研究」、「国連安保理と紛争解決」、「開発研究」、「Aid Policy」といった事例研究や演習系の授業では、発表準備のためにグループで何時間も議論を重ねたことがいい思い出になっています。

また、授業のティーチング・アシスタントをしたときにGraSPPとDOIS両方の学生と議論したのも印象的でした。同じ社会的課題を考える際でも、GraSPPとDOISではアプローチが異なります。GraSPPの学生が、俯瞰的な視点から政策による課題解決を考える一方、DOISの学生は、現地の人々に寄り添って問題の根を深く理解しようとします。両者が協力すると、相互補完的で有効なアプローチが可能だ

と感じていました。その相互補完が実現したのが被災地支援活動でした。

私がDOISに進学した2011年4月は、東日本大震災の発生直後でした。「被災地のために何かしたい」という学生がたくさんいたため、共同で学生ボランティア団体「UT-OAK震災救援団」を立ち上げました。GraSPPの同期生がNPOで働いていたこともあり、連携して宮城県南三陸町に通いました。避難所での炊き出しから始まって、仮設団地での生活支援や学習支援へと発展し、現在も活動は続いています。現地活動は4年間で66回におよび、GraSPPの学生を含む延べ362名が協力してくれました。DOISとGraSPPの力を融合した有意義な活動と自負しています。

現在、私が携わっている「社会構想マネジメントを先導するグローバルリーダー養成プログラム(GSDM)」は、GraSPPを中心とする9研究科20専攻が分野横断型の社会的課題解決策を探究するプログラムです。どんな課題でも、各領域の第一人者である研究者・実務家がそれぞれの深い知見を提供すれば、包括的な解決策がきっと見つかります。私は、GraSPPの学生がさまざまな分野でその知見を活かせるようお手伝いします。4年ぶりのGraSPPでどんな後輩たちに出会えるのか、楽しみにしています。

TOPICS トピックス

キャンパスアジアコースが主催するキャンパスアジア・サマープログラム2の授業の一環として催されたフィールドトリップで、東京大学、ソウル大学校、北京大学の学生が5月16日に靖国神社を訪れました。神社や施設内の遊就館を見学し、日本や靖国神社の歴史と文化に触れました。遊就館で展示されている戦争の歴史については、日本からの視点が「新しい発見で興味深い」との声が上がり、日中韓の学生間でさまざまな意見が交わされました。



女性特集号、いかがでしたか。先日は、なでしこジャパンが女子サッカーワールドカップ準優勝という嬉しいニュースもありました。決勝でアメリカに敗れたものの堂々の銀メダル、大活躍だった宮間あやキャプテンはブロンズボール受賞、FIFAランキング(最新版は3月27日付)世界4位、文句なしの偉業です。GraSPPも教員、職員、学生問わず、力を存分に発揮して活躍する女性がたくさんいます。これからも折に触れてそんな「カッコいい」女性を紹介していきたいと思えます。

(編集担当)

NEWSLETTER [編集・発行] 東京大学公共政策大学院
第41号
GRADUATE SCHOOL OF PUBLIC POLICY
THE UNIVERSITY OF TOKYO

[発行日] 2015年7月31日

[デザイン] 安孫子正浩(水蒸気図案室)

〒113-0033 東京都文京区本郷7-3-1 tel 03-5841-1710 fax 03-5841-7877

E-mail grasppnl@pp.u-tokyo.ac.jp <http://www.pp.u-tokyo.ac.jp>